

# 外国人の入域数増加が課題

## 東北運輸局「図で見る東北の運輸2008」から

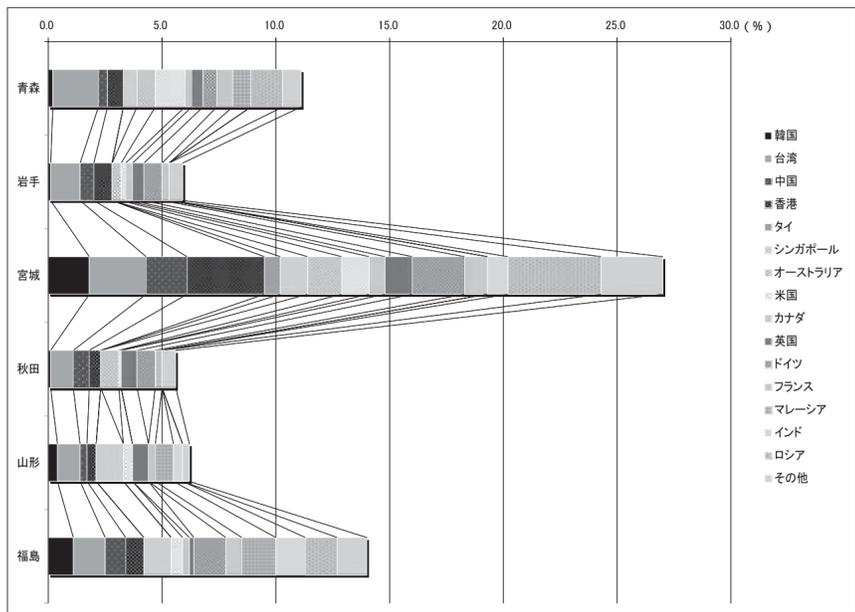
東北運輸局はこのほど、東北の旅客輸送や観光などのデータを分かりやすく図表化した「図で見る東北の運輸2008」を発表した。これによると、東北地方全体の入域観光客数は07年まで微増しているものの、入域数増加に有効と考えられるインバウンドについては、東北全体への入込数でも全国シェアの3・6%と低い。全国各地からの旅客流動では、中国、四国、九州、沖縄地方との相互流動の割合が低くなっており、インバウンドとともに西日本地域との交流促進も今後の課題と言えそうだ。

(3) 東北6県への訪日外客の訪問率(2006~2007年度)

(単位:%)

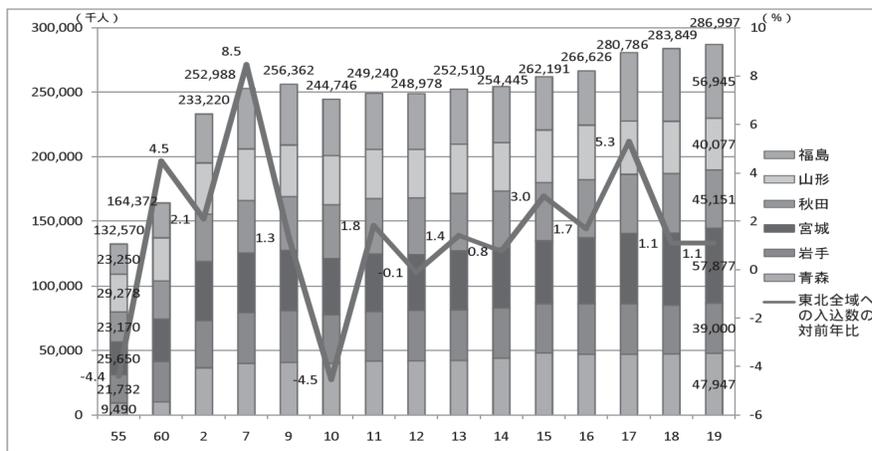
国名	県名	標本数	東京	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	東北
全体		13,891	57.4	0.8	0.5	1.9	0.5	0.5	1.0	3.6
韓国		3,486	46.8	0.2	0.1	1.8	0.1	0.4	1.1	3.0
台湾		2,552	46.5	2.0	1.3	2.5	1.0	1.0	1.4	4.7
中国		1,134	65.7	0.4	0.6	1.8	0.7	0.3	0.9	3.4
香港		746	62.2	0.7	0.8	3.4	0.5	0.4	0.8	4.3
タイ		267	42.3	-	-	0.7	-	-	-	0.7
シンガポール		167	54.5	0.6	-	1.2	-	1.2	1.2	4.2
オーストラリア		263	51.7	0.8	0.4	1.5	0.8	-	-	1.9
米国		1,746	65.0	1.3	0.2	1.2	0.1	0.4	0.5	3.2
カナダ		301	66.1	0.3	0.3	0.7	-	-	0.3	1.7
英国		566	70.0	0.5	0.5	1.2	0.7	0.7	0.2	2.8
ドイツ		355	69.9	0.6	0.8	2.3	0.8	-	1.4	5.1
フランス		291	81.1	0.7	0.3	1.0	0.3	0.3	0.7	3.4
マレーシア		131	60.3	0.8	-	-	-	0.8	1.5	3.1
インド		226	63.3	-	-	0.9	-	0.4	1.3	2.2
ロシア		73	64.4	1.4	-	4.1	-	-	1.4	6.8
その他		1,570	71.5	0.8	0.6	2.7	0.6	0.3	1.3	5.1
不明		17	58.8	-	-	-	-	-	-	-

資料:国際観光振興機構(JNTO)「訪日外客実態調査」  
 (注)各訪問率は左欄の標本数に対する率



作図:観光経済新聞社

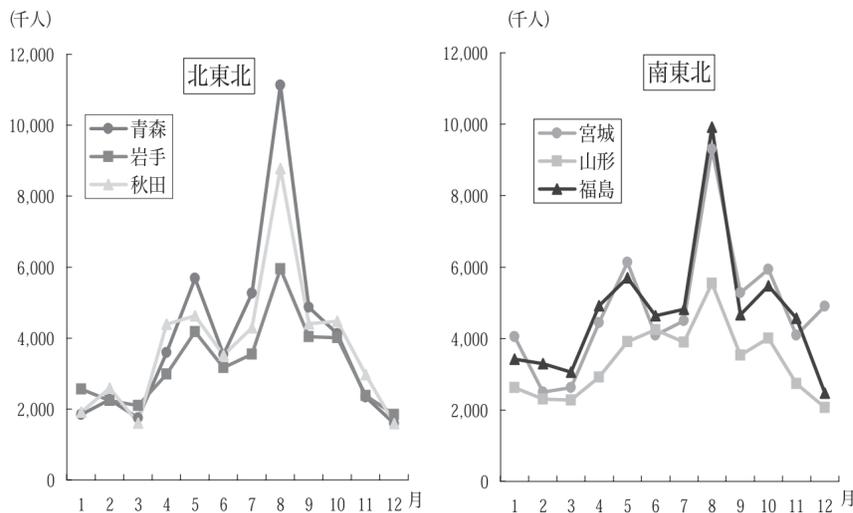
(1) 県別観光入込客数の推移



資料:各県「観光統計」

(注) 1.観光入込数は、特定の観光地点を通過する観光客の延べ人数であり、回遊観光客が複数カウントされている場合がある。  
 2.宮城県は昭和55年、昭和60年は主要観光地だけの数字である。  
 3.福島県は、昭和63年よりスキー客を含めた数字である。  
 4.山形県は年度、その他は暦年での集計である。

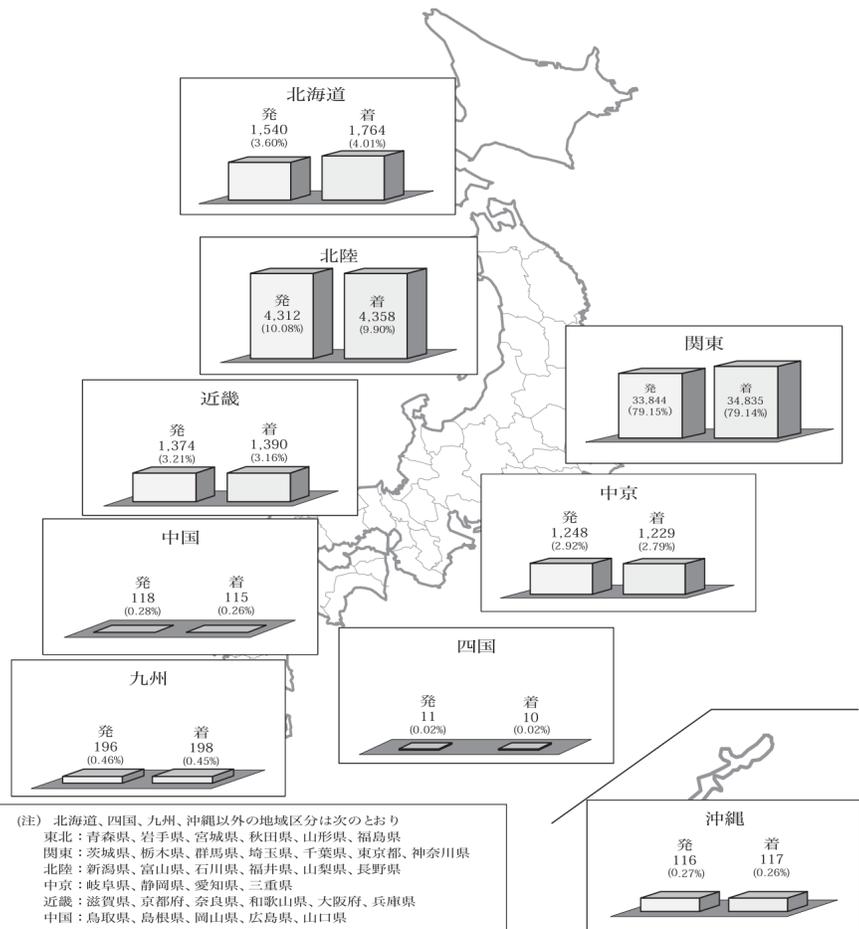
(2) 月別にみた観光入込客数(2007年度)



資料:各県「観光統計」

調査データ

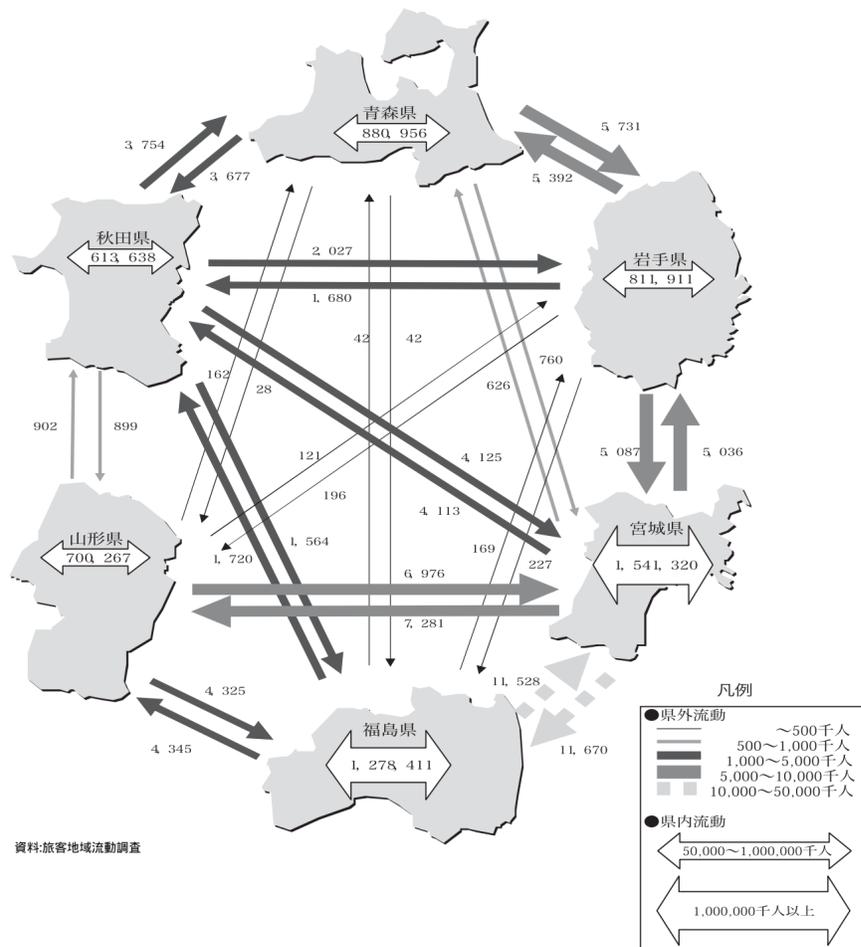
(5) 東北と全国との旅客流動(2006年度)(単位:千人)



(注) 北海道、四国、九州、沖縄以外の地域区分は次のとおり  
 東北:青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県  
 関東:茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県  
 北陸:新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県  
 中京:岐阜県、静岡県、愛知県、三重県  
 近畿:滋賀県、京都府、奈良県、和歌山県、大阪府、兵庫県  
 中国:鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

資料:旅客地域流動調査

(4) 東北域内の旅客流動(2006年度)(単位:千人)



資料:旅客地域流動調査

凡例  
 ● 県外流動  
 ○ 県内流動  
 粗線: ~500千人  
 中線: 500~1,000千人  
 細線: 1,000~5,000千人  
 点線: 5,000~10,000千人  
 実線: 10,000~50,000千人  
 粗線: 50,000~1,000,000千人  
 細線: 1,000,000千人以上